

1990年出土の木簡



(永平寺・大野)

野郡司として朝倉氏の同名
大学文学部附属博物館所蔵王
生家文書『朝倉家伝記』、大

福井・一乗谷朝倉氏遺跡

1 所在地 福井市城戸ノ内町字中惣なかそな

2 調査期間 第六八次調査 一九九〇年(平2)四月～一二月

3 発掘機関 福井県立朝倉氏遺跡資料館

4 調査担当者 水野和雄・岩田 隆・吉岡泰英・南洋一郎・

5 遺跡の種類 城館跡・城下町跡

6 遺跡の年代 戰国時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

一乗谷は戦国大名越前朝倉氏の城下町で、中世近衛家領宇坂庄に属し足羽郡の東端に位置した。当館では、館・武家屋敷・寺院・町屋など、城下町の主要部分を計画的に発掘調査している。昨年度は、朝倉義景のいとこで(京都

衆に高い地位を占めた朝倉景鏡の屋敷と伝えられる場所(城戸ノ内町字中惣)を発掘した。当地区についてはすでに一九八二年に県道改良工事のため部分的に発掘調査を行なつており(第四三次調査)、調査区の南北端に濠が確認され、北側の濠から漆椀や曲物、下駄、一節切などの木製品が出土している。今回はこの県道の東側約三八〇〇mを調査した。調査の結果、大規模な石敷建物一棟・礎石建物四棟・土墨などを検出し、南北九六m、東西推定約六〇mの屋敷地に、濠がめぐつていていることを確認した。この屋敷の北側にある東西方向に走る濠(幅五m、深さ一・七m)から、陶磁器や完形の漆椀・小形曲物・雪下駄・刀形・木刀などの木製品とともに、梵字を記した卒塔婆二点が出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1)



(182)×(30)×2 061

出土した二点はともに断片である。(1)は二つに割れ、さらに端を
さいたあとがある。表の面は明瞭に種子が確認できる。卒塔婆はも
う一点出土しているが、墨痕はごく部分的で判読できない。

9 関係文献

福井県立朝倉氏遺跡資料館『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 一九九〇』(一九九一年)

(佐藤 圭)

木簡研究第一〇号

卷頭言——木簡学会の十年——

原秀三郎

一九八七年出土の木簡

概要

平城宮・京跡

興福寺勅使坊門跡下層

藤原宮跡

藤原京跡

藤原京三条三坊

紀寺跡

長岡宮跡

長岡宮・京跡

鳥羽離宮

千代川遺跡

矢谷遺跡

大坂城跡(1)

大坂城跡(2)

梶原南遺跡

宅原遺跡(豊浦地区)

長田神社境内遺跡

書写坂本城跡

砂入遣

跡 杉垣内遺跡

清洲城下町遺跡

岩倉城遺跡

勝川遺跡

刈安賀

遺跡 山中遺跡

小町一丁目一〇七番地地点遺跡

宮町遺跡

川田川

原田遺跡

光相寺遺跡

妙楽寺遺跡

釜淵遺跡

南古館遺跡

大槻

遺跡 手取清水遺跡

角谷遺跡

横江莊遺跡

白坏遺跡

草戸千軒

町遺跡 延行条里遺跡

長門国分寺跡

安養寺遺跡

金光寺跡推定

地 博多遺跡群(築港線関係第三次調査)

吉野ヶ里遺跡群

本告

牟田遺跡

一九七七年以前出土の木簡(一〇)

平城宮跡(第四四次)

中世木簡の一形態——山札・茅札についての覚書

雲夢睡虎地秦墓竹簡「日書」より見た法と習俗

木簡の保存処理

彙報

『木簡研究』六七一〇号総目次

研究集会報告一覧

木簡出土遺跡報告書等目録

木簡出土遺跡一覧

価額 三八〇〇円

円 四〇〇円

寺崎保広

石井 進
工藤 元男
沢田 正昭